

平成26年12月期 第2四半期 決算説明会



清和中央ホールディングス



平成26年8月

経営環境について

鉄鋼需要について

①建設業向け需要

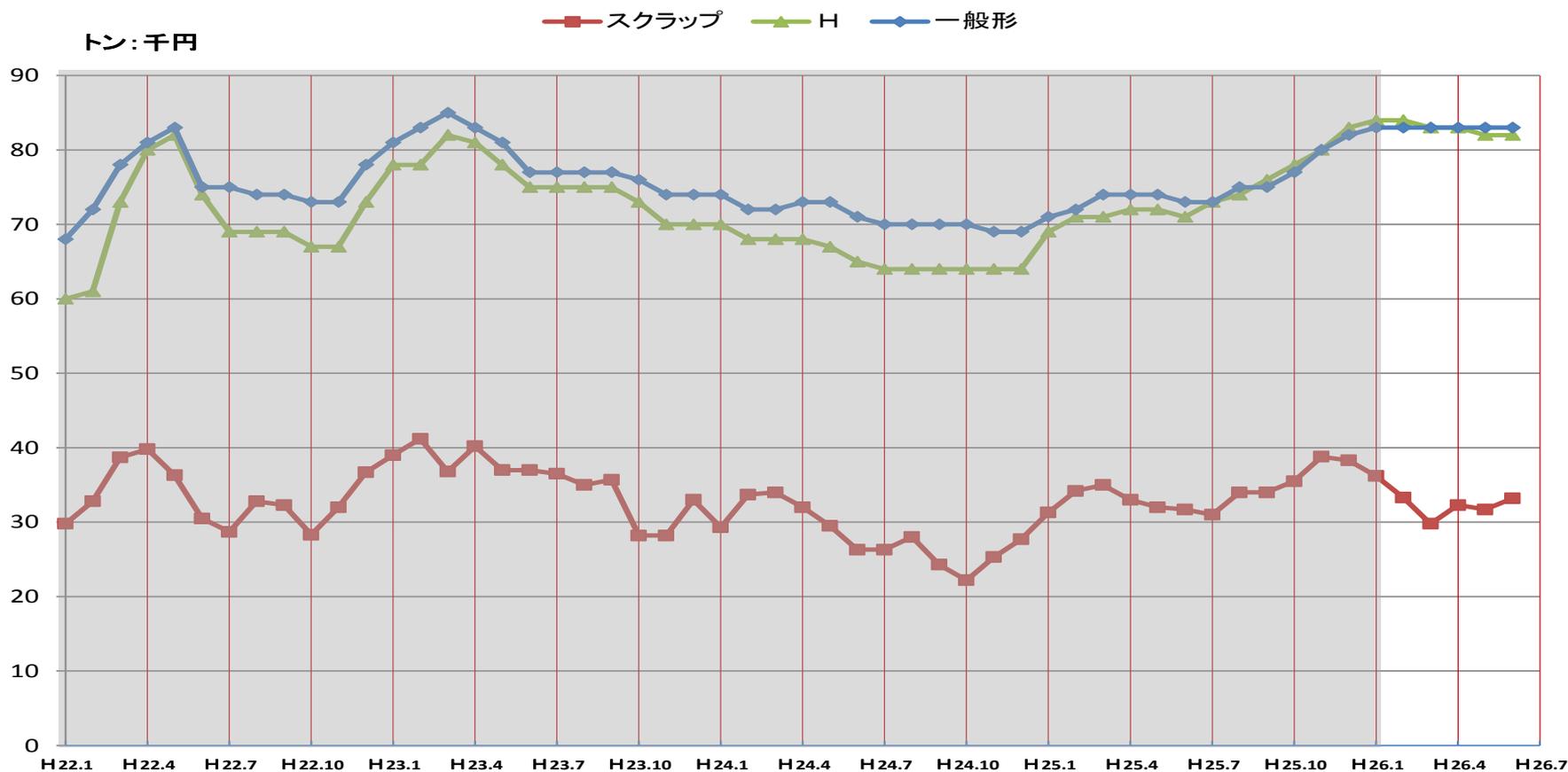
- ・ 人手不足・施工能力不足などの要因もあり、需要増には頭打ち傾向が見られた。
- ・ H23年夏場以降回復した需要は好水準を維持した。

②製造業向け需要

- ・ 昨年来の円安にも関わらず、自動車生産以外の分野での目立った改善は見られず、停滞が続いた。

鋼材市況について

鋼材価格は、今年に入ってから、鉄鉱石・石炭・スクラップ等の原材料価格の反転、下落傾向の影響を受け、大幅な値下りには至らなかったものの期間を通じて若干弱含みに推移



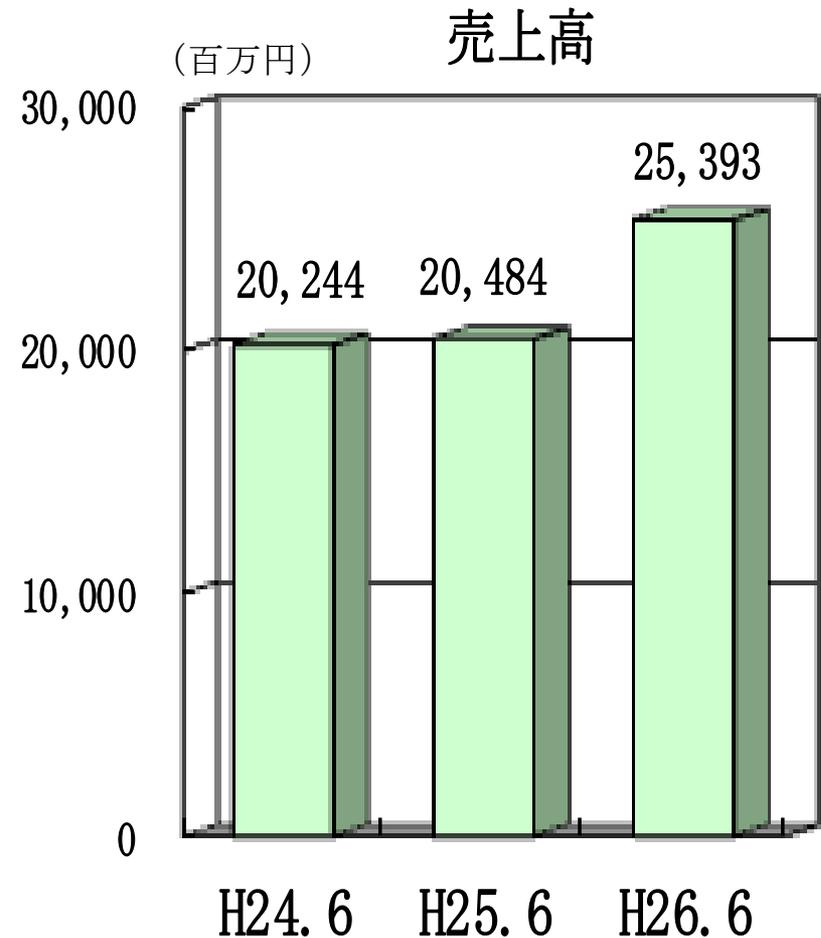
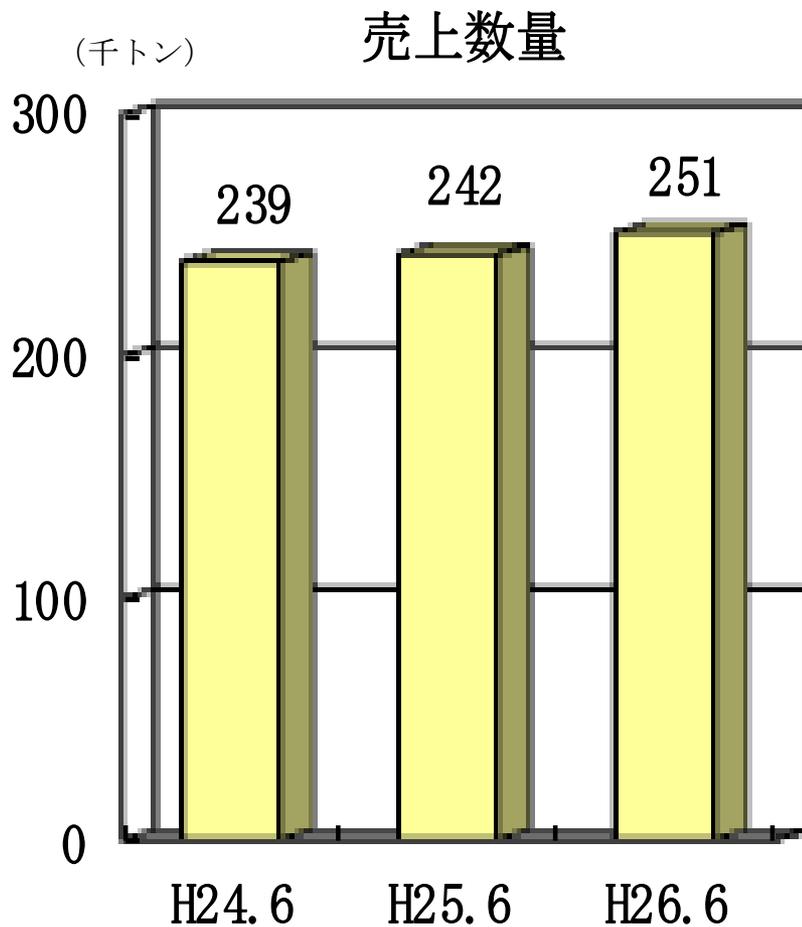
個別業績①（単体）

	清和中央HD 平成26年 第2四半期	主な項目
営業収益 百万円	297	・ 経営指導料収入・事務委託料収入 ・ 受取配当金・不動産賃貸収入等
営業費用 百万円	150	
営業利益 百万円	147	
営業外収益 百万円	9	・ 受取利息等
営業外費用 百万円	10	・ 支払利息等
経常利益 百万円	146	
税前利益 百万円	146	
当期純利益 百万円	119	

個別業績②（子会社）

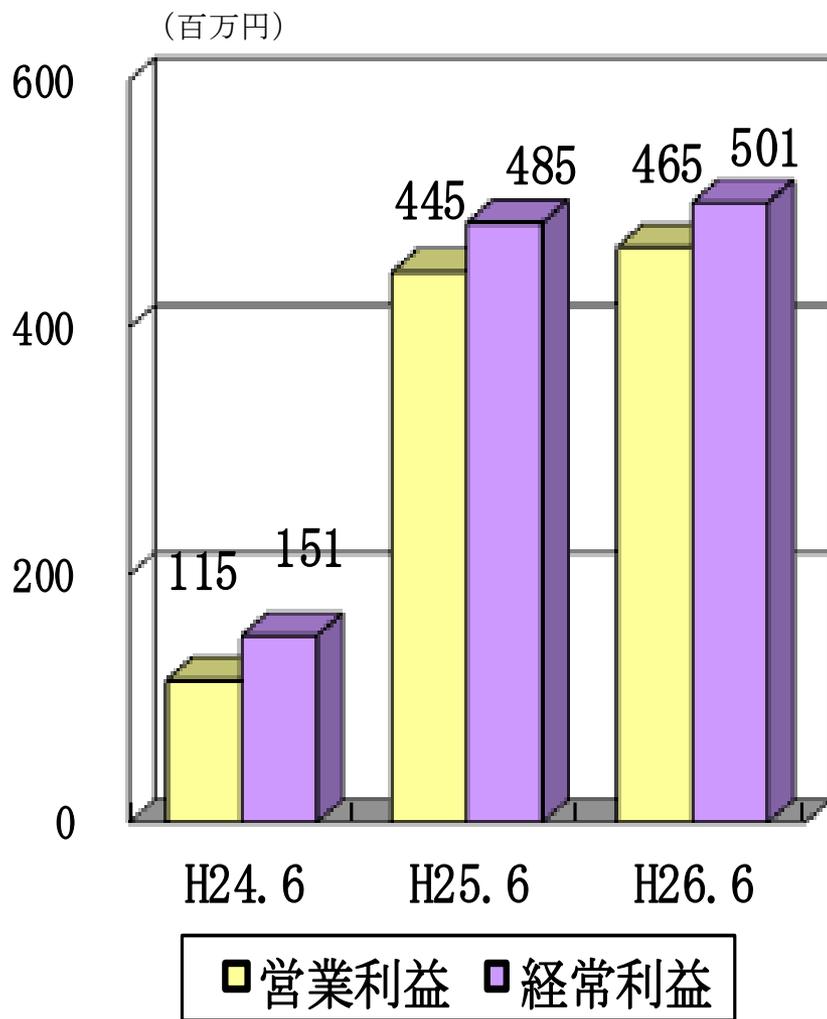
	清和鋼業 平成26年 第2四半期	中央鋼材 平成26年 第2四半期
売上数量 千トン	143	109
売上高 百万円	14,339	11,066
営業利益 百万円	249	186
経常利益 百万円	277	195
税前利益 百万円	277	195
当期純利益 百万円	164	140

経営成績推移 (連結)

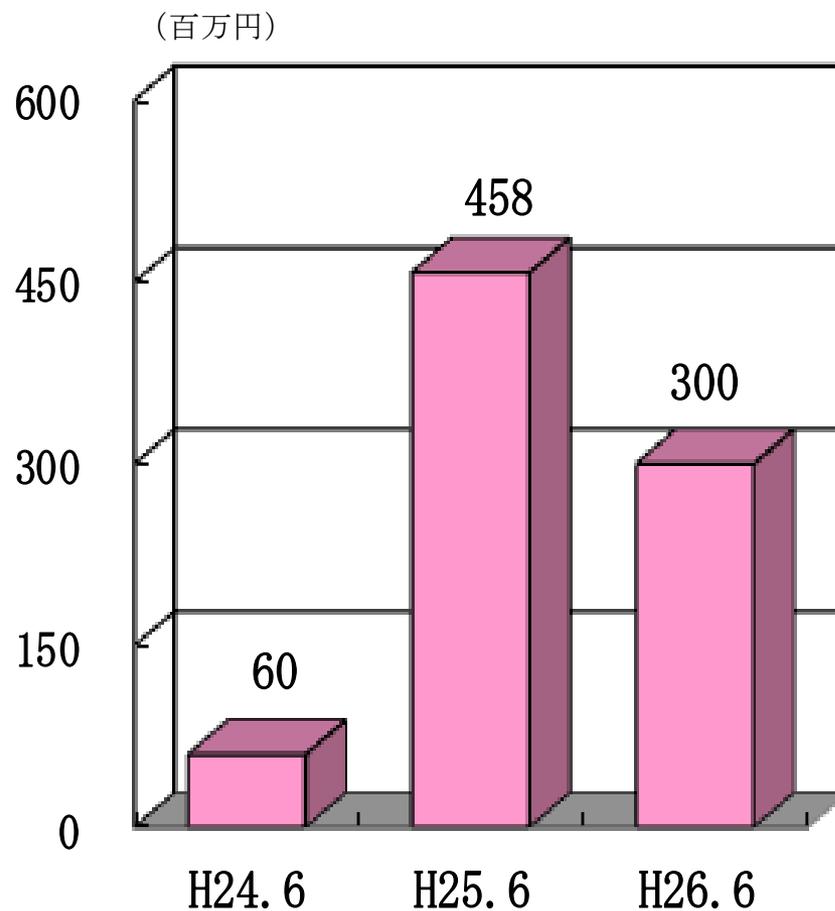


経営成績推移（連結）

営業利益および経常利益



当期純利益

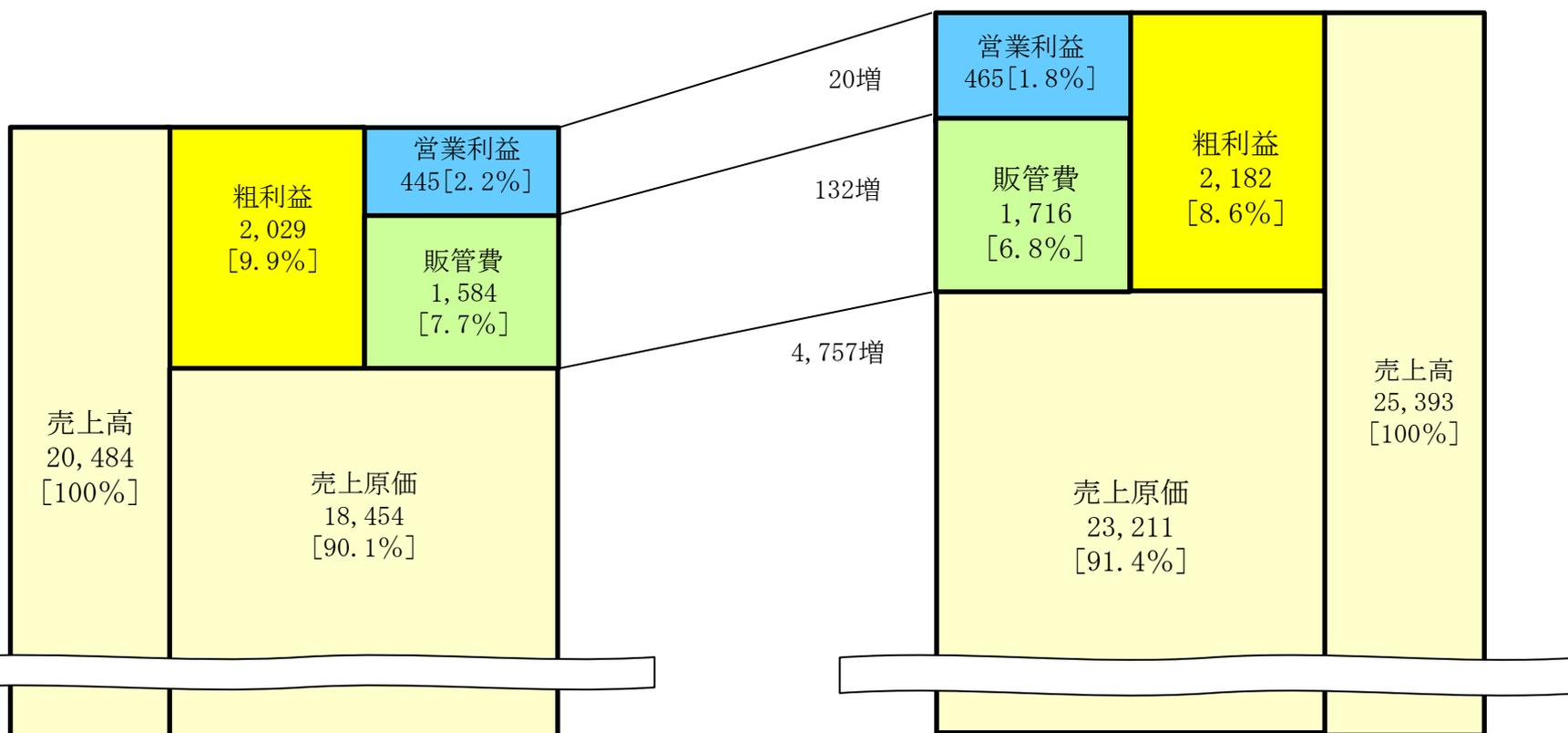


前年比増減分析 (連結)

単価:百万円
[]:売上高構成比率

平成25年 第2四半期

平成26年 第2四半期

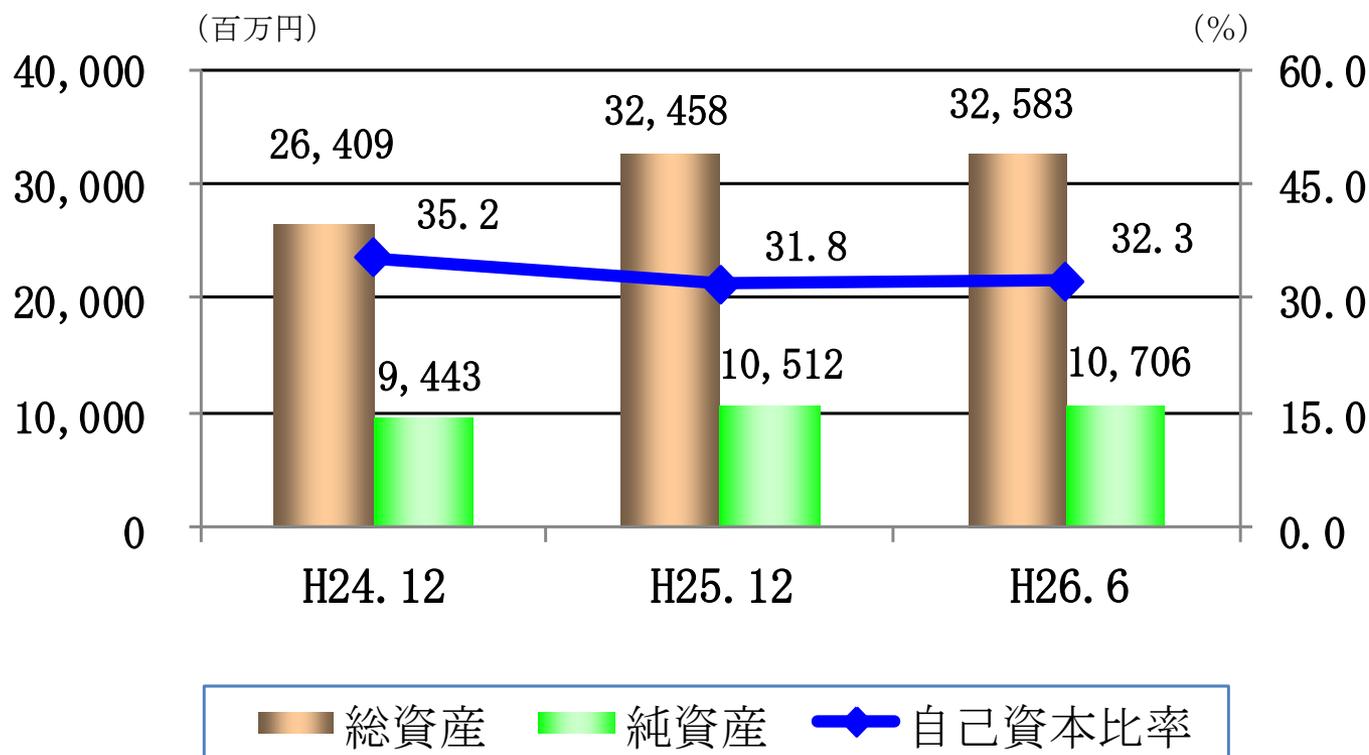


財政状態推移（連結）

	平成24年期末	平成25年期末	平成26年 第2四半期末
総資産 百万円	26,409	32,458	32,583
純資産 百万円	9,443	10,512	10,706
負債 百万円	16,965	21,945	21,877
自己資本比率 %	35.2	31.8	32.3

財政状態推移 (連結)

総資産・純資産・自己資本比率



1株当たり情報（連結）

	平成24年 第2四半期	平成25年 第2四半期	平成26年 第2四半期
1株当たり純利益 ^円	15.54	117.14	76.84
	平成24年期末	平成25年期末	平成26年 第2四半期末
1株当たり純資産 ^円	2,371.07	2,638.46	2,687.00

下期の見通しについて

- 鋼材需要については、建設・製造業とも、大幅な増加は期待出来ないが、秋口の需要期もあり、微増傾向が続くと思われ、扱い数量は微増を見込む。
- 販売価格については、まだ弱含みが続き、上期比若干下落を見込む。収益面では、販売利鞘について上期比縮小が見込まれ、利鞘拡大は困難。

個別業績予想①（単体）

	清和中央HD 平成26年12月期 予想	主な項目
営業収益 百万円	483	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営指導料収入・事務委託料収入 ・ 受取配当金・不動産賃貸収入等
営業費用 百万円	303	
営業利益 百万円	180	
経常利益 百万円	180	
税前利益 百万円	180	
当期純利益 百万円	147	

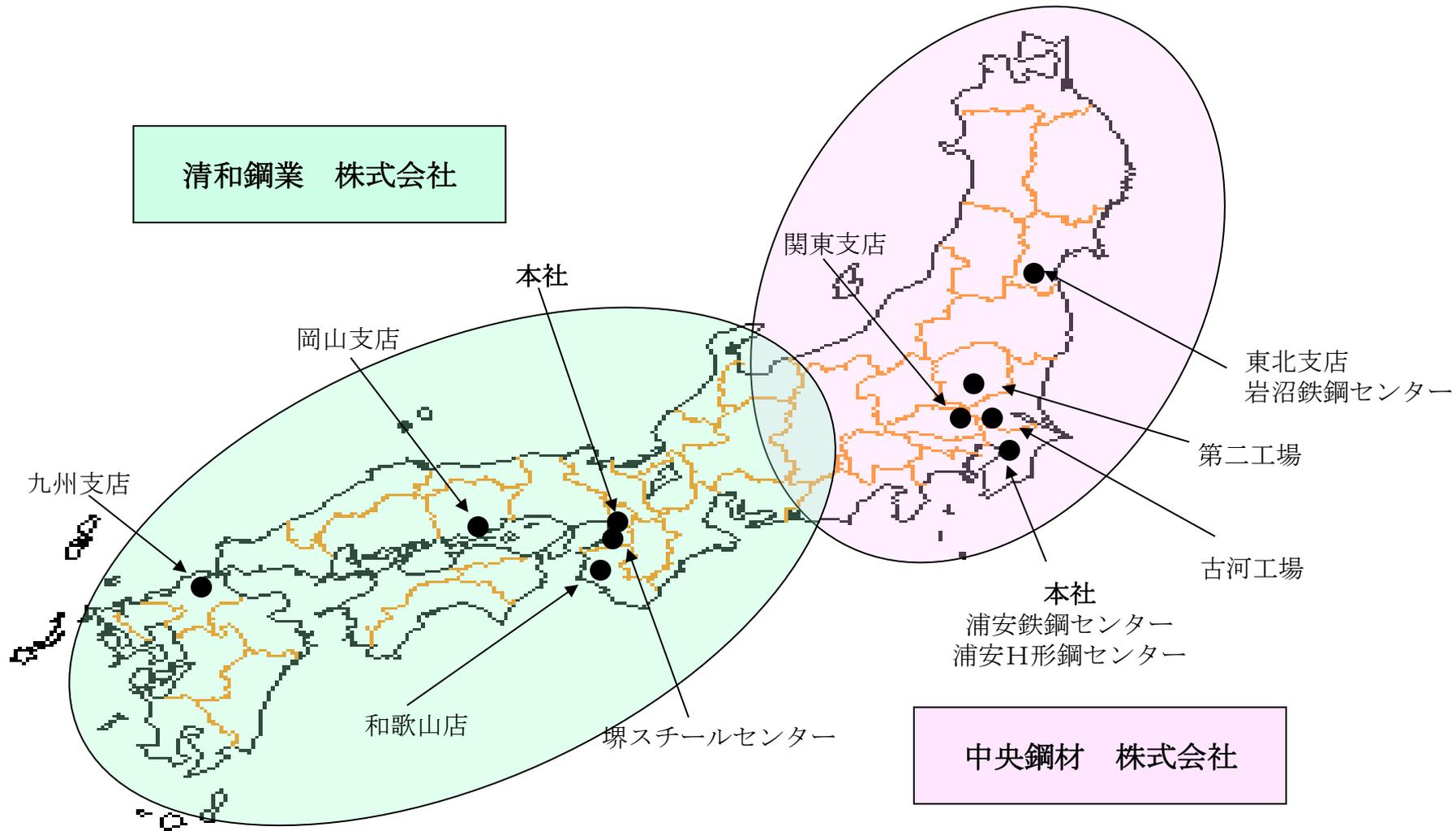
個別業績予想②（子会社）

	清和鋼業 平成26年12月期 予想	中央鋼材 平成26年12月期 予想
売上数量 千トン	290	215
売上高 百万円	27,349	23,189
営業利益 百万円	355	413
経常利益 百万円	394	424
税前利益 百万円	394	424
当期純利益 百万円	202	277

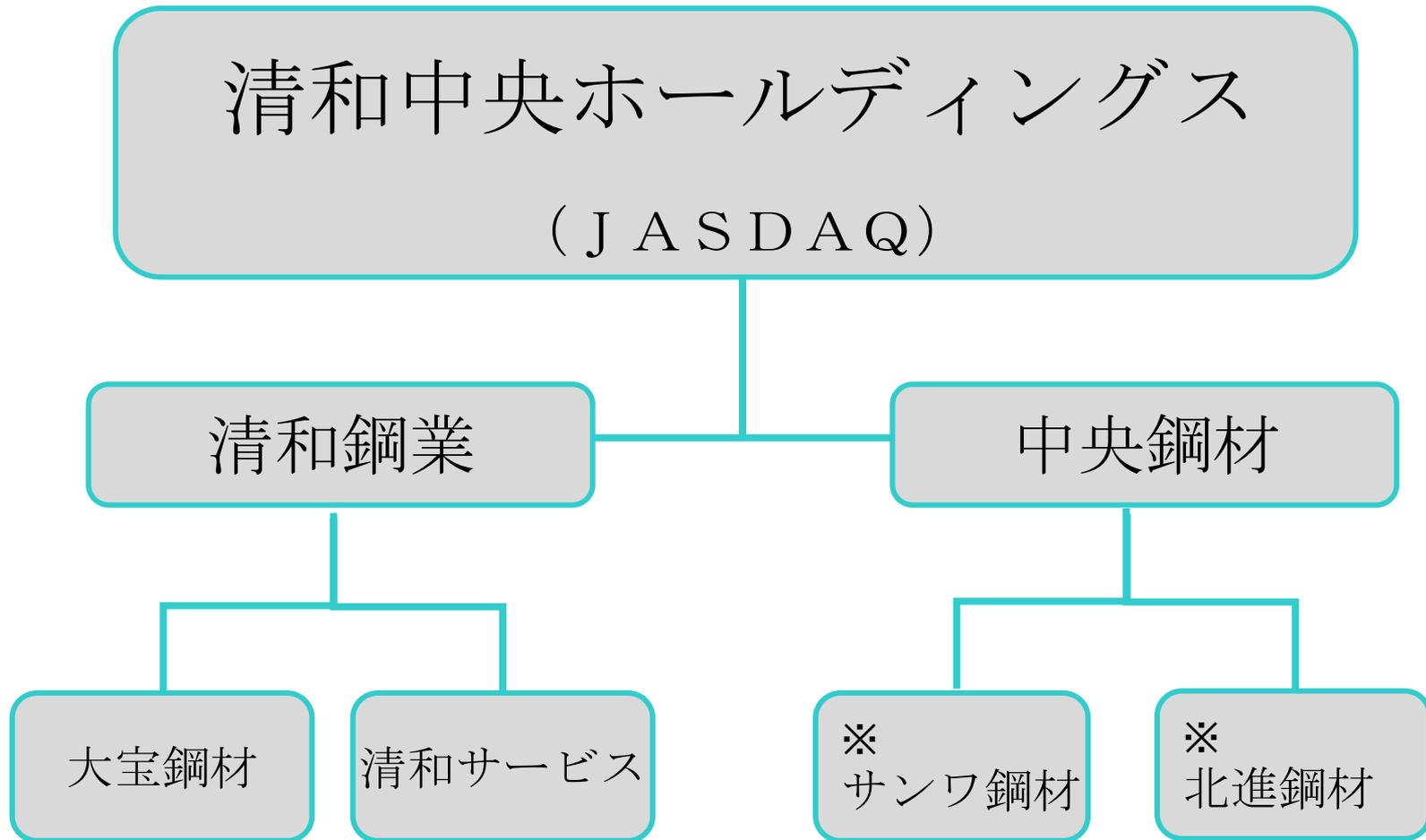
連結業績予想

	平成25年12月期 実績	平成26年12月期 前回予想	平成26年12月期 業績予想
千トン 売上数量	519	505	505
百万円 売上高	44,887	50,000	50,000
百万円 営業利益	877	840	840
百万円 経常利益	950	890	890
百万円 税前利益	1,057	890	890
百万円 当期純利益	882	520	520

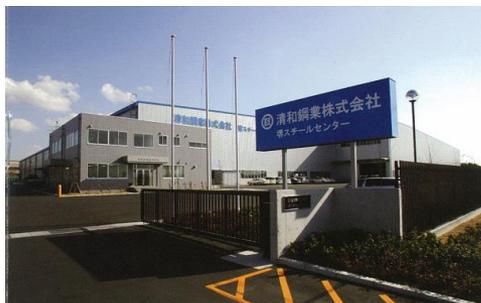
参考：グループ拠点



参考：グループ体制



※は非連結子会社



Holdings

清和中央ホールディングス



※平成25年より不動産賃貸に係わる表示方法の変更を実施したため、平成24年度につきましては、当該表示方法の変更を反映した遡及修正後の数値を記載しております。

※売上数量は、本年より中央鋼材における梁加工の扱い数量を含めております。また平成24年度・平成25年度の売上数量も同じく遡及修正しております。

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後、様々な要因によって異なる場合があります。